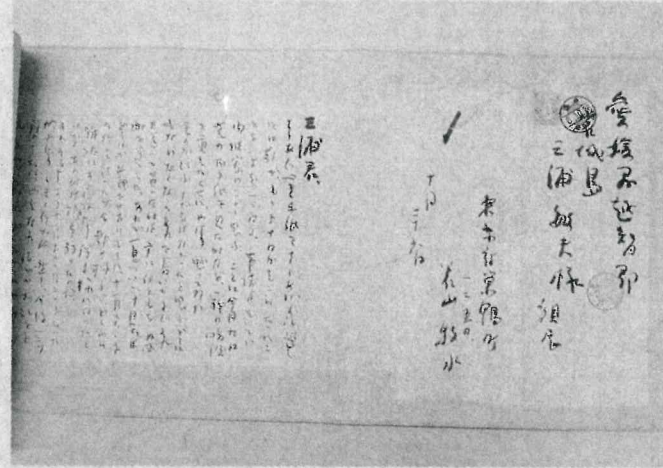


牧水直筆の掛け軸など寄贈

8/5 交流のあった三浦氏の遺族

日向市に



三浦敏夫氏に宛てた牧水の手紙

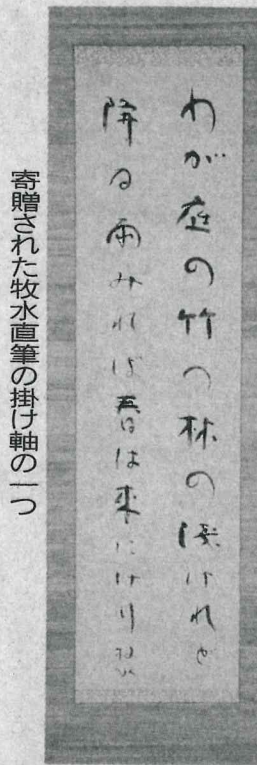
日向市は24日、同市東郷町坪谷出身の歌人若山牧水と交流のあった関係者遺族から、牧水直筆の

日向市は24日、同市東郷町坪谷出身の歌人若山牧水と交流のあった関係者遺族から、牧水直筆の

日向市は24日、同市東郷町坪谷出身の歌人若山牧水と交流のあった関係者遺族から、牧水直筆の

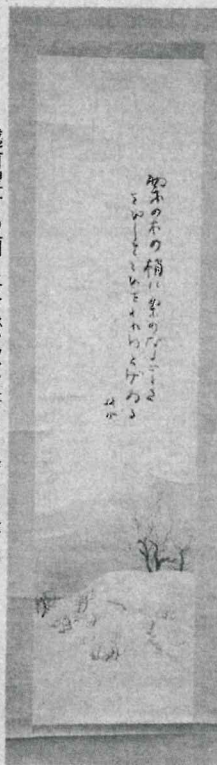
明らかにした十屋幸平市長は「今年に牧水の没後90年。その誕生日に報告できうれしく思う。本市や市民にとっては貴重で価値のあるもので感謝している」と話した。

寄贈品の一部は、牧水没後90年に当たる9月17日の「第68回牧水祭」の際に、若山牧水記念文学館（同町坪谷、伊藤一彦館長）の常設展示場に数点展示する計画。



寄贈された牧水直筆の掛け軸の一つ

越前翠村の画に牧水が歌を書いた珍しい作品



寄贈されたのは若山牧水直筆の掛け軸7幅、短冊帖（ちよう）と書画帖各1冊や、敏夫氏に宛てた牧水からの手紙を大切に表装して巻物に仕立てた書簡3巻など。妻喜志子直筆の掛け軸や色紙なども含まれる。

牧水直筆の掛け軸のうち、「わが庭の竹の林のぼけれ降る雨みれば」は「牧水かるた」にもある歌で、大正5年、三浦半島の北下浦（神奈川県横須賀市）時代の作。門下生の歌人で日本画家の越前翠村の画に牧水が歌を書いた貴重な作品もある。

市では牧水と敏夫氏の関係などを詳しく検証した後、来年以降に特別企画展を開催する予定という。

2024. 8. 25



若山牧水の短歌を朗詠する第二ゆりかごWEC学院の児童ら（24日、延岡総合文化センター）

若山牧水しのび生誕祭

銅像に朗詠と献酒 延岡総合文化センター

郷土の歌人・若山牧水をししのぶ「第33回牧水生誕祭」が24日、延岡総合文化センターで行われた。子どもたちが牧水の短歌を朗詠。正面玄関前にある銅像に、牧水が愛した酒をささげた。

若山牧水は明治18年8月24日、日向市東郷町坪谷生まれ。今年で生誕133周年になる。生誕祭は若山牧水延岡顕彰会（飯千喬啓会長）と延岡東ロータリークラブ（山内勉会長）が主催した。飯千会長は生誕祭に合わせて「マンガ若山牧水」が発行されたことに触れ、「若い人たちの中で牧水が忘れ去られていくのではないかと、頭

彰会相談役の塩月眞さんが牧水の短歌を元氣よく朗詠した。その後、銅像前に移動し、参加者一人一人が献酒した。牧水生誕祭は昭和61年、延岡東ロータリークラブが牧水生誕100周年を記念して同センター東側に銅像を建立。以来、毎年8月24日に開催している。（3面に「マンガ・若山牧水」出版記念祝賀

若山牧水延岡顕彰会が総会（飯千喬啓会長）は24日、平成30年度総会を開いた。牧水の没後90周年記念事業として、「マンガ・若山牧水」の市内小中学校などへの配布や、作者で延岡市出身の漫画家のしいやみつのりさんに

よる出前講座などを実施することを承認した。没後90周年記念事業は市の市民まちづくり活動支援事業補助金を受けて実施。子どもたちに牧水を知ってもらうために、マンガ・若山牧水を市内の小中学校や図書館などに配布。しいやさんを招いて、小中学校での出前講座を計画する。また、牧水にゆかりのある場所を巡る見学ツアーも実施する。

このほか、例年実施している「牧水歌碑祭」や、同顕彰会の一部門・研修部による定期的な学習会を聞くなどの活動計画を承認した。

8/25



マンガ制作の経緯を話しいやみつのりさん(右)。左は妻の幸子さん(24日夜、延岡市の国技館)

「マンガ・若山牧水」

8/25

しいやさん 夫妻も出席 にぎやかに完成祝う

顕彰会「顕彰活動さらさら」

郷土の歌人・若山牧水の生涯を描いた初の漫画本「マンガ・若山牧水」の発刊記念祝賀会が24日夜、延岡市内で開かれた。原作者の塩月眞さん(延岡顕彰会相談役)や、絵を担当した延岡市出身の漫画家しいやみつのりさん(埼玉県熊谷市在住)らを囲み、完成を祝福、今後の顕彰活動をさらに進めていくことを確認した。

祝賀会には牧水の延岡一彰会、延岡東ロータリー顕彰会や日向市東郷町頭クラブ、しいやさんが卒業した旭中学校の同窓生らが出席した。

著書「牧水の風景」が原作となった塩月さんは資金難を乗り越え、約8カ月かけて完成したマンガに「牧水は人をつなぐ不思議な力を持っている。だんだんと人が集まり、力が強くなる」と感慨深げ、「牧水が愛したのは人間だ。延岡と日向の水をもっと知ってもらいたい」と思っていた。単行本になると、自分で言うのも何だが、いい本になっちゃん」と喜んだ。妻の幸子さんは「睡眠は3〜4時間、毎日15時間は描いていました」とエピソードを披露した。発行作業の中心となっ

た。延岡市出身の漫画家しいやみつのりさん(埼玉県熊谷市在住)らを出席した。著書「牧水の風景」が原作となった塩月さんは資金難を乗り越え、約8カ月かけて完成したマンガに「牧水は人をつなぐ不思議な力を持っている。だんだんと人が集まり、力が強くなる」と感慨深げ、「牧水が愛したのは人間だ。延岡と日向の水をもっと知ってもらいたい」と思っていた。単行本になると、自分で言うのも何だが、いい本になっちゃん」と喜んだ。妻の幸子さんは「睡眠は3〜4時間、毎日15時間は描いていました」とエピソードを披露した。発行作業の中心となっ

た。延岡市出身の漫画家しいやみつのりさん(埼玉県熊谷市在住)らを出席した。著書「牧水の風景」が原作となった塩月さんは資金難を乗り越え、約8カ月かけて完成したマンガに「牧水は人をつなぐ不思議な力を持っている。だんだんと人が集まり、力が強くなる」と感慨深げ、「牧水が愛したのは人間だ。延岡と日向の水をもっと知ってもらいたい」と思っていた。単行本になると、自分で言うのも何だが、いい本になっちゃん」と喜んだ。妻の幸子さんは「睡眠は3〜4時間、毎日15時間は描いていました」とエピソードを披露した。発行作業の中心となっ

た刊行会の野中英雄会長(大正大学鴨台会南九州支部長)は「誠にうれい。マンガは実に分かりやすく、牧水の人間愛、家族愛が伝わる。延岡と日向の顕彰会が、牧水は県を代表する文化人という共通の認識を持って、顕彰活動に力を込めていきたい」と喜び、日向市東郷町顕彰会的那須文美会長も互いに協力していくことに応じた。

「マンガ・若山牧水」の制作は、牧水について描きたいと考えていたしいやさんを、旭中学校の同窓生が塩月さんと引き合わせたことをきっかけに始まった。延岡顕彰会や長年にわたって顕彰活動を続ける延岡東ロータリークラブなどが中心となって発行を準備。地域創生学部学生の受け入れなどで交流のある大正大学100%出資会社で

出版などを担うティー・マップ(T-map)が一部を引き受けたことで実現した。発行所は大正大学出版会。制作は大正大学事業法人(株)ティー・マップ、マンガ若山牧水刊行会(延岡顕彰会、日向市東郷町顕彰会、延岡東ロータリークラブ、大正大学鴨台会南九州支部。15000部を製作。1

部1200円(税別)。問い合わせは、延岡顕彰会事務局(☎延岡22・7047)、飯干商事(☎延岡32・5411)、今山大師(☎延岡32・5290)、若山牧水記念文学館(☎日向68・9511)。



購入者と握手するしいやさん(24日、延岡総合文化センター)

2018.8.25